

■ 2020年度 入試問題分析シート ■

大阪大学

前期日程

科目

数学(文系)

総括

試験時間

90分

難易度(昨年比)

難化

昨年並

易化

分量(昨年比)

増加

昨年並

減少

〈総論〉

出題された3題とも、阪大文系数学としては標準的であり、昨年度と比べて易化した。

〈特記事項・トピックス〉

理系と共通問題が含まれていない。(これが易化した最大の要因。)

①・③ともに三角関数との融合題になっている。特に③で3倍角公式が必要であり、三角関数が重視されている。

〈合格への学習対策〉

教科書内容を十分に学習した後、入試数学の標準問題を解くことにより、典型的な解法を修得することが必要である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
①	記述	II	微分法・三角関数	$f(x)$ の増減表を書いて極大 $M(a)$ を求める。次に a を変数と見て、 $M(a)$ の最大値、最小値を求める。	標準
②	記述	A, B	確率・数列	$n+1$ 回目に Q が A に位置する場合を、 n 回目の Q の位置で分類して数列 $\{p_n\}$ の漸化式を作って解く。	標準
③	記述	I, A	三角比・三角関数	辺の長さの関係を正弦定理を用いて角の大きさの関係に書き直して結論を示す。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。